

専任教員の教育・研究業績

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有		
体育学部	准教授	小菅 萌				
<b>I 教育活動</b>						
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)						
Google Classroomの使用		平成28年4月～現在	学生の宿題・課題の提出や資料共有、授業連絡のため、クラス管理システム (Google Classroom)を導入している。			
協同学習の取り組み		平成27年4月～現在	ベースグループを作成し、協同学習の手法を取り入れて授業を行っている。学生からの授業評価では平均4.0点～4.5点程度の評価を得ている。			
2 作成した教科書、教材、参考書						
教材作成		平成27年4月～現在	授業をすすめるにあたって、その都度テーマに沿った教材を作成し、活用している。			
「これから学ぶスポーツ心理学」第7章スポーツにおける集団、執筆		平成30年3月	スポーツ心理学の新版の指定教科書では、執筆に参加した。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						
特になし						
4 その他教育活動上特記すべき事項						
特になし						
<b>II 研究活動</b>						
著書 (単著)						
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月	
著書 (共著・分担執筆)						
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月	
第7章スポーツにおける集団/これから学ぶスポーツ心理学	小菅 萌 / 荒木 雅信	50頁～59頁	大修館書店	東京都文京区湯島2-1-1	平成30年3月	
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)						
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月	
What influences collegiate coaches' intentions to advance their leadership careers? The roles of leader self-efficacy and outcome expectancies.	©Moe Machida-Kosuga., John Schaubroeck., Daniel Gould, Martha Ewing, Deborah Feltz	International Sport Coaching Journal	4	265頁～278頁	平成29年7月	
The effect of peer interaction on sport confidence and achievement goal orientation in youth sport.	©Seung Hwang, Moe Machida-Kosuga., Youngjun Choi	Social Behavior and Personality	45	1007頁～1017頁	平成29年4月	
Leader self-efficacy of women intercollegiate athletic administrators: A look at barriers and developmental antecedents.	© Moe Machida-Kosuga, John Schaubroeck., Deborah Feltz	Journal of Intercollegiate Sport	9	157頁～178頁	平成28年12月	
大学バスケットボール指導者の指導哲学とその形成過程	©澁澤秀徳・町田萌・濱野光之	バスケットボール研究	1	73頁～86頁	平成27年12月	
Examining multidimensional sport-confidence in athletes and non-athlete sport performers	©Moe Machida, Mark Otten, Michelle Magyar, Robin Vealy, Rose Marie Ward	Journal of Sports Sciences	35	410頁～418頁	平成27年8月	
スポーツ集合的効力感尺度の改訂・邦訳と構成概念妥当性の検討	©内田遼介・町田萌・土屋裕睦・釘原直樹	体育学研究	59	841頁～854頁	平成26年8月	
Resilience in competitive athletes with spinal cord injury: The role of sport participation.	©Moe Machida, Brandon Irwin, Deborah Feltz	Qualitative Health Research	23	1054頁～1065頁	平成25年6月	
総説						
Interaction of efficacy and leadership competency development.	©Machida-Kosuga, M.	New Directions for Student Leadership	156	19頁～30頁	平成29年11月	
Studying the career advancement of women coaches: The roles of leader self-efficacy	©Moe Machida, Deborah Feltz	International Journal of Coaching Science	8	22頁～27頁	平成25年7月	
その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入)						
区分	題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月
学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入)						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国内 (シンポ)	平成30年10月	第45回日本スポーツ心理学会	心理学実践のためのコンピテンシー	名古屋国際会議場	小菅 萌	
国内 (シンポ)	平成29年11月	第44回日本スポーツ心理学会	海外文献レビューから: メンタルトレーニングコンサルタントに必要なコンピテンシーを定義する	大阪産業大学	小菅 萌	
国際	平成27年10月	第30回Association for Applied Sport Psychology 学会大会	Athlete leadership in sport team: Review and future directions	Indianapolis, IN, USA	Moe Machida & Todd Loughead	
国内 (講演)	平成26年8月	第65回日本体育学会大会	体育・スポーツにおけるリーダーシップの心理学: 海外研究の動向	岩手大学	小菅 萌	

科学研究費等の取得状況						
科学研究費／その他の助成金／外部資金						
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額（期間内の総額）	
科学研究費	若手研究（B）	選手のリーダーシップスキル向上における可能性を探る	代表	H. 29-H. 32	3,250,000円	
科学研究費	若手研究（B）	アスリートのリーダーシップスキル獲得過程モデルの構築	代表	H. 25-H. 29	4,160,000円	
特許						
特許名称	発明者／出願人	出願日／出願番号	公開番号	取得した場合 ⇒	公告・特許番号	国
Ⅲ 加入学会および社会における活動						
期 間	内 容					
加入学会						
平成29年1月～現在	American Psychological Association 会員					
平成29年4月～現在	日本心理学会 会員					
平成28年10月～現在	Association for Applied Sport Psychology, Research Development Committee 委員					
平成25年8月～現在	日本スポーツ心理学会 会員					
平成25年8月～現在	日本体育学会 会員、国際交流委員会幹事					
社会的活動						
平成29年9月～現在	NTT docomo ラグビーチーム スポーツ心理学コンサルタント					
平成25年10月～平成29年5月	アルバルク東京 スポーツ心理学コンサルタント					
平成27年2月～平成28年5月	U20男子ラグビー日本代表 メンタルコーチ					
Ⅳ 管理活動						
期 間	内 容					
委員会活動						
平成27年4月～現在	国際地域交流委員会（国際交流部会）委員					
平成27年4月～現在	自己点検評価委員会 委員					
特別プロジェクト活動						
平成29年8月～現在	文科省事業 「女性アスリートのパフォーマンス向上とスポーツ傷害予防の両立を目指したトレーニングプログラムの開発と普及・啓発～女性アスリートのトレーナビリティと下肢傷害発生の危険因子の関連性を探る～」委員					
Ⅴ クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人		
4. 現場指導の頻度	選択 ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	選択	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	選択	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	選択	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所		
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）						
開催期間	大会名		成 績	場 所		
Ⅵ 賞罰（職務に関する賞罰）						
年 月	受賞等機関名	内 容			備 考	